

現代用語の 基礎知識



自由国民社版

時代の鼓動を反射する新語外来語の宇宙・
「辞典で事典で史典」の機能的新編集

1981

別冊付録 波動する世界

インド・イラン
小アジア・バルカン
エジプトの歴史

紀元前5000年から今日まで

知って
おきたい
98の
エピソード

日本の
国家再建を
考える用語集

世界の文明と
日本の将来を
考える用語集

世界戦略の
強みと弱みを
探る用語集

世界に誇る
日本技術を
理解する用語集



世界
カントリー
リスク地図

二色グラフ
戦略資源を
探る用語集

81年版

現代用語の基礎知識 総目次

アイウエオ順・全用語・総索引

索引頁 1~90

A B C 順・外国語の略語・索引

索引頁 91~96

81年版 別冊付録 波動する世界 インド・イラン・小アジア・
バルカン・エジプトの歴史・

八一年版によせて

●本号は八〇年代の第二年目に入つた版である。ある講演会で井上靖氏は文明の盛衰について、インドの考古学者マールシャルの含蓄ある言葉「人生とはほろびにむかって傾斜していく長いプロセスだ。一国の文化も文明というものもある。」はそういふものかもわからない。そしてモヘンジヨダロのインダス文明というもののほろび方が外敵によるものか、あるいは何の変化によるものか、病気か、わからない。わからないけれどもそのほろびたときは、そうしたいろんな問題に対処できないほど文化のからだというものは、おとろえていた」を引用し、どんな文化も滅亡の技術というものはもつてないと言っている。八〇年は九〇年へ、そしてそれは二〇〇〇年の時代へと確実に進んで行くであろうが、現在、地上最大の繁栄を誇っている巨大都市文明が、果たして老朽・衰退、滅亡の途を辿らないと誰が保証できる。日本の進むべき途も、われわれは、あらためて歴史に学ばなければならぬ。

●歩み始めた八〇年代の入口に立つて、清水幾太郎氏は、「古い戦後」から「新しい戦後」への苦しい転換のエネルギーはどこから生まれるか、その主役は誰かと、その著書で問うている。特集(1)「今日の問題」は一つはマクロ、一つはミクロの史観として一見かけ離れたもののように見

えるが、問題の所在は全く同一といえる。八〇年代第一版において、「今日から明日の問題」は、「戦争」である。戦争はすでに始まっていると書いているが、イラクとイランの戦争はすでに現実のものとなつていて、そこには流された夥しい血が、浄化作用を果たして世界的血止めとなるか、あるいは血は血を呼ぶ結果になるか、何人も予測できない。そればかりでない。世界の英知を代表しているかに見える超大国やそれに続く先進国も、流血阻止の知恵も手段もない。

言えることは各国民族が生き残るために、自國の利益を最優先させて開つてことだけだ。これが、今日の世界のありのままの姿ではないか。特集(2)「今日の世界」は、この世界の基盤を客観的に見きわめようとする素材として編集された。超大国といえども、いまや絶対的な力をもつてゐるのはではない。かえつてそれが潜在的な弱みを示してゐる場合もある。貧しい発展途上国の中に、いずれ頗る在する強い力があることを見過ごすことはできない。これらの要因が「力」の力学として、戦争の因をはらんでいるともいえる。「戦因」ははらんでいるともいえる。

●特集(3)「今日の常識」のなかで指摘される問題は日本の技術である。資源に乏しい日本が今後生きる途は、いわゆる技術立国しかなく、本誌見返しに特集した外国特派員のすべてが、指摘しているところである。しかし、日本の誇るべき技術も、ついに一定の条件の中へ置かれ、また競争の中に置かれている。ひとつたゞ一件の一つの素因に変化があれば、誇るべき技術は一夜にして転落の途を歩むこととなる。日本全国民の自覚が要請される所以である。「国際障害者年」はこのヒッグ・エベントの解説ではあるが、今後国際社会の重要な一員として進出してゆくとき、いつも批判されるのは、このよな国際行事に取り組むわが国の姿勢にある。為政者の最大の課題であろう。

●本号の別冊付録は「波動する世界」である。今日の歴史の主役に躍り出たこれらの国々は、中東とか近東とか呼称する欧米史観からは理解できない、新しい歴史研究者のこの労作を編集部は自負している。

●八〇年版のこの欄において「考えてみると創刊時からの愛読者の相当数は、いま、社会各方面の指導者として中堅層として活動されているわけである。心から健在を祈る」と記した長谷川国雄社長が五五年九月二日急逝された。無念である。故社長は本誌の生みの親であると同時に育ての親であった。昭和二年創刊以来三二年間本誌の校正のすべてに目を通され、注ぎ込まれた情熱と見識は日本出版史上希有のことである。編集部は冥福を祈るとともに、輝かしいこの伝統を引きつぐことを読者諸氏に誓う。

(編集部)

日本の国家再建を考える用語集

憲法改正

有難く思い、バイブル視するの
も人情だろう。

ろか、食うか食われるかの戦国時代にあることは明らかであ

によつてゐる。
パチンコ屋に倒
立文

にしろ、実に頻繁に憲法改正が行われている。

②利己心に訴えるとは、個人の

る。前文のバラダイスが嘘であることは、日々のニュースが示

ジャーナル施設に対する国庫補助を歓迎する人たちが、国難に殉じ

戦後、西ドイツでは三〇回、フランスでは五回、イタリアでは二回、英米

しかし、国家は、個人の権利と義務とのバランスを絶対の条件とするものであるから、個人の権利という甘いものだけを約束して、義務という苦いものに触れないで済むはずはない。

②これも終戦時のドサクサの中から、昭和二五年の朝鮮戦争にさいして、かつて第九条を課して、警察予備隊（七万五〇〇〇人）

た人々を祀る靖国神社に対する
國庫補助となると、急に目の色
を変える。
とにかく、憲法改正の問題を白
由に冷静に考えよう。

れかにれば、国家はヨーロッパ亡びる。この意味では、日本国

警衛二個隊（十七五〇〇〇名）という名の軍隊が作られ、後に保安隊と改称、現在は自衛

日本国憲法第九六条

日本国憲法第九六条

昨日まで戦い合い殺し合つて来た相手である日本が二度と強大な国家にならないための憲法、いや、日本亡国のための憲法であることは当然の話である。

占領下に成立した憲法は無効であるというのが、国際法上の定説であるらしいが、占領が終つた後も、日本国憲法は改正されどろどろか、むしろ、これを神聖なバイブルの如く扱う風潮や傾向が支配的である。

これに関係して、次の三点を指摘しておく。

①利己心は最も根強い人間性であるが、憲法の諸条項は、巧みに私たちの利己心に訴える内容のものである。

従つて、敵国が押しつけたインスタント憲法であるにも拘らず、個人にとっては口当りのよい、甘い文字ばかりで、これを

るが、ギリギリまで煮つめて行くと、軍事力が国家の本質的条件となる。それが広く学界の常識である。ところが、日本国憲法第九条は、この軍事力の保有を禁じている。即ち、戦後の日本は、国家としての本質的条件を根本的に欠いている。アメリカがインスタント憲法を作成し強制した意図は極めて明らかである。しかし、他面から見ると、既に大小の憲法違反が、容易に動かし難い既成事実になつていてる。傷だらけの憲法、嘘で固めた憲法とも言える。再び三点を挙げる。

①日本国憲法前文は、国際社会というものを美しいパラダイスであるかのように描いている。そう描くことで第九条と辻褄が合うのであろうが、戦後三五年、国際政治がバラエイスト

隊であるのに、憲法違反であるため、日蔭者になつてゐる。筋を通そうとすれば、憲法を改正するか、自衛隊を解散するか、二つに一つの道しかない。小さな会社の解散でも簡単には行かないものである。大きな武装集団である自衛隊の場合、誰が如何にして解散させることが出来ることか。

③或る時期から、私立大学に対する国庫補助が行われている。不思議なもので、口を開ければ憲法擁護を叫ぶ人々は、これを歓迎しているが、これは憲法第九条（公の財産の支出又は利用の制限）に違反するものである。

私立大学の大部分は、一種のレジャー施設であつて、研究教育の機関とは言い難い。私立大学の経常費の三分の一は国庫補助

これは憲法改正に関する規定たように、憲法改正は絶対の義務である。もともと、日本国憲法は、アメリカ占領軍が、日本の根本的弱体化を狙って、非民主養成のための文書として作成したものであり、虚偽と非常に多く満ちている。出来るだけ早く改正しなければならぬ。その場合、真先に問題になるのが第九六条である。曰く、「各議院の総員の三分の二以上の賛成で、国民投票又は国会の定める選会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の際行われる投票において、過半数の賛成を必要とする。世界の諸国を見渡すと、日常飯事というものは言い過ぎである。

大切な道具であれば、ときどき手入れをする必要がある。他の諸国の場合、改正に関する規定がどうなっているか、いまは立ち入らないが、日本の場合、第六条では、如何に改正しようとも、手の着けようがない。衆参両院における三分の二以上、そのうえ、国民投票による過半数という風に二重の壁がかかるつていては、憲法改正という箱の蓋を開けることは殆ど出来ない。

殆ど出来ない、と言ったのは、右の手続（民主的？）によつては殆ど出来ないという意味で、改正のエネルギーが或る程度を越えて大きくなると、クレデルが起り、それで憲法改正が行れるかも知れない。私は事を好むものではないが、戦後三五年、何とか平穏無事

現地生産(local production) 日本製乗用車の対米輸出急増で日米自動車戦争が激化しつつあるが、その対策でトヨタ、日産などのメーカーのアメリカ国内での「現地生産」が取り沙汰されている。この「現地生産」の訳語としてはlocal productionが適当であろう。localの代りにlocally-based productionでも

(2) そのうち目が覚めるであらうが、アメリカは、右の単純かつ肝要な点がなかなか判らない。そのため、アメリカでは、世界諸国の自由度なるものを数字で示し、これを比較するようなどが行われている。日本、アメリカ、カナダ、イギリス……は一〇〇、ソ連、韓国……二五といふ調子で、これと愚劣な人権外交とが一組のものになつてゐる。如何に市場機構の国でも、開発途上にある場合、外的脅威が迫つてゐる場合など、高度の自由を国民に与えることは出来

の国々と聞くだけで行くことをどういも寄らぬ。

最適失業率

自由である。財やサービスが自由に交換されるマーケットのない国には、観念や思想を自由に交換するマーケットは存在しない。ソ連を初めとする社会主義諸国も、日本国憲法第二二一条と同じような条項は含まれているが、それは文字だけであり、自由市場がなく、中央集権的命令経済の下では、国民は、私たちには空気のように平凡に思われるような自由も与えられない。市場機構即ち資本主義の敵は、究極において、自由の敵である。

ながら、社会主義諸国にとつては痛くも痒くもない。
③日本の安全及びアジアの平和にとって、韓国が非常に大切であり、同時に、アセアン諸国（インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール）も非常に大切である。日本は、これらの国々とも堅く結んで行かねばならぬ。
その際、韓国及びアセアン諸国全部が、自由のディレンマを解消するために、共産党を非合法化していることを知らねばならぬ。それを忘れて、これら

しかし、ソ連の軍事的優勢が明らかになり、米ソの軍事的バランスが崩れかけている現在、戦後日本の自由に関する異常な状況に自覚めて、自由のディレクマの問題を徹底的に考えねばならない。

① 一切の自由の基礎は、経済的触れておく。

これに関連して、三つの論点に

的脅威が薄らげば、自由度は自然に高くなる。

難する人間も、もし同じ大量失業の渦に呑み込まれたら、必ず動物的になつていただろう。また、右の事実を正面から理解しなかつたら、ヒトラーの意味を理解することは出来ない。彼が狂人とかペテン師とか呼ぶのが世の常識になつてゐるけれども、カントやゲーテを生んだドイツ国民数千万人が狂人やペテン師の手で操られて來たと考える方が無理ではないか。彼は、他の誰にも出来なかつたこと、即ち、ドイツの大量失業を一掃

暴力の一〇年間として歴史に残る「一九三〇年代」の社会へ出て行つた。何ペーセントか知らないが、日本だけでなく、多くの国々が未曾有の大量失業を見舞われていた。

失業は、パンを買う金がないこと、パンがないことは、餓死することを意味する。人間は動物であるから、餓死への恐怖は深く人間性に刻み込まれている。大量失業という現象が起ると、人間は、彼を人間らしく見せていた条件を失い、急速に動物的になつて行く。それ

ると、日本は、ステグフレーション（不況とインフレとの共生）の問題を巧みに捌いて来たが、長期的に見ると、もう一つ、最適失業率の維持が重要な課題である。

私は、一人の教師として、学生の行動様式の急速な変化を知った。人間は根本において動物であるから、その血には餓死への恐怖が含まれている。勤勉、礼儀、節約などの人間的美德は、溯れば、餓死への恐怖に由来するもので、怠惰、非礼、浪費などが餓死の危険を招くことを本能が教えるからである。

ところが、完全雇用通り越して、超完全雇用の状態になると、人間的美德を支えて来た餓死への恐怖が一度に姿を消す。飽食の人間は、始末の悪い動物

た。敗戦後の悲惨な悪条件から出発し、次々に障碍を乗り越え、また、幾つかの好運に恵まれて、一九六〇年代の高度成長期を迎えた。

勅
章
禮
記

憲法第一四条第三項はとなく、「栄誉、勲章その他の栄典の授与は、いかなる特権も伴はない。栄典の授与は、現にこれを有し、又は将来これを受ける者の一代に限り、その効力を有する。」何という否定的な規定であろう。勲章、くたばれ、といふようなものではないか。

人間が人間らしい美德を維持するためには、従つて、社会が或る安定を保持するためには、一定程度の失業率が必要である。深刻な失業が酷寒であり、完全雇用が猛暑であるとすれば、最適失業率は、人間も社会もシャンとする、少しヒンヤリした秋の温度を示す。

日本国憲法を中心とする戦後思想においては、「人間は無限の可能性を有する」という調子の、歯の浮くような人間観が支配的である。

しかし、生身の人間は有限の動物である。その幅は極めて狭い。失業が深刻になれば、忽ち動物的になり、他方、完全雇用になれば、再び動物的になる。

があるにも拘らず、社会が極端に卑しくならないで済んだのである。「衣食足リテ礼節ヲ知ル」という言葉があるが、日本では、逆に、経済の高度成長の結果、人間が少し卑しくなつたようだ。憲法における崇典制度が人間性に合した積極的なものであつたら、そして、その後で経済成長の大波が起つたら、「衣食足リテ礼節ヲ知ル」がそのまま実現したであろう。勲章の話が出るたびに引用されるのが、芥川龍之介の「小兒」と題する断片である(『侏儒の言葉』所収)。「軍人は小兒に近いものである。……この故に軍人の誇りとするものは必ず小兒の玩具に似る。……勲章も私は実際不思議である。なぜ軍人は酒にも酔はずに、勲章を下げる歩かれるのであらう?」既に文名の高かつた——大いに名譽を得ていた——芥川龍之介が右のように考えたとしている。また、それで彼の高い見識を示したとしても、それに文句はないが、しかし、こういう人間観では、彼の後輩に当たる戦後の作家たちが、文化勲章を貰いたいために、芸術院会員になっていたために、猛烈な運動をやつしている現実が理解出来ないであろう。作家も小兒になつたのか。軍人になつたのか。七十歳になると、生存者叙述の対象になるらしく、私の高等学年の同級生で官界に進んだものは、大会社のトップになつたものは、既に何人か勲一等の勲章

から喜んでいるけれども、し、割切れぬ点が幾つかある
①人間七十歳になると、もう
いことも悪いことも出来るも
ではない。それを見届けての
勲かとも思うが、これは専ら
去に対する叙勲である。もつ
若い人間、これから悪いこと
するか知れぬ人間が善いこと
やつた時に思い切って高位の
章を与えるべきではないか。
かつて、KLMのハイジャッ
事件の際、献身的に活動した
本人スチュワーデスに、即刻
オランダ女王は最高の勲章を
えた。タクシーの運転手は、一
口同音、こう言っている。「
事故で一度表彰されると、も
絶対に事故が起せません。」
去に対して勲章を与えるのも
いが、未来に対し与える方
大切である。与えられた人間
万一悪いことをしたら、褫奪(ちだつ)
ればよい。

教育
改革

チケチせずに、勲章を与えること。芥川龍之介が何と言おうと、私たちは、根本において、「小兒」なのであり、「軍人」なのである。

教育改革

教育基本法の廃止が絶対の急務である。同法は、その前文に明らかな通り、日本国憲法の精神に基づくものであり、後者が特に第九条によつて日本から国家としての本質（軍事力）を奪つたのと同様、前者は、教育からその本質を奪つた。

教育のミニマムの定義は、「民族の文化的遺産を年少者に伝達する活動」である。教育基本法の何處を探しても、教育の本質に関する一つの文字も見出しえとは出来ない。日本国憲法が亡国憲法であるのと同じく、教育基本法は国籍不明の、啓蒙主義的理想的宣言の宣言、亡國教育の憲法である。同法を離れて、改革の要点の若干に触れておく。

①義務教育の教科書は国定であること。現在は、多くの編者による教科書が多くの会社から出版されていて、同じ学年の同じ国語でも、教科書間に文字使いその他に異同が多く、国語の教科書と社会など他の科目の教科書との間に一層の異同が見られ、また、不思議なことに、編者に共産党系人物（民族の文化的遺産の破壊を企てる人物）が少くない。編者、出版社、教員

或る種の癒着が生じてゐるのであろう。義務教育の教科書は、全国一律の国定教科書であるべきである。
② そう言えど、「強制」、「統制」、「押しつけ」という紋切型の非難が生ずるであろうが、この非難は、先ず、学校給食に向かふ方がよい。敗戦後の悲惨な食糧事情においてこそ意味のあつた方式が、食糧過剰の今日まで生き残っているのがグロテスクなのである。これを必要とする生徒は別として、犬猫に餌を与えるのに似た方法で食物を強制し、食事の作法を教える(範食)どころか、教師は職員室で天どんを食うという方式は許すべきでない。教科書の場合と同じく、給食業者と各方面との間に既に醜い癒着の関係が生じているのであろう。

③ 「民族の文化的遺産の伝達」は、一方、国語によつて行わられ、他方、国語自身が最も重要な文化的遺産である。しかし、教育基本法の下における教育で、国語ほど不当な取扱を受けたものはない。中国なら必要であろうが、日本のように文盲率殆どゼロの国では全く不必要的漢字の制限、思いつきで作った略字体の強制が、アメリカ結果、鷗外や漱石の原文は、義務教育終了者にも、大学卒業生にも、もう読めなくなつてゐる。教育は民族の文化的連続の保持

では、文化的断絶のための教育になつてゐる。教育の手で伝統を葬つてゐる。略字は昔からある。しかし、あれは浴衣のようなもので、外出する時は正字といふ背広を着た。戦後は、浴衣が民主的で、背広が反動的といふのか、かつて私の孫はウツカドリ正字を書いて、先生からひどく叱られたことがある。日本中にあるだろう。

④遠い昔は別として、幕末から今日に至る日本の歴史を調べれば調べるほど、日本の運命が如何に累卵の危きにあつたか、この間にあつて、幕末明治の先輩が如何に明敏果斷をもつて事に当つたかが判る。ゾッとした、ホンダとする。

しかし、広く世に行われてゐる『昭和史』(岩波新書)風の共産党的歴史書、それに水増ししたような歴史教科書は、戦前は軍国主義、戦後は民主主義といふ方式で、歴史的連續性を断ち切り、私たちが主人公である連続長篇ドラマの深い重い意味を全く教えてくれない。

現在の日本も、幕末明治に劣らぬ危い状態にあるのに、子供たちは歴史に学ぶ機会を奪われている。歴史に学ばない民族に未来はない。

だけではover-protectionと訳せる。例えば「近頃、子供たちは過保護気味なので、甘やかしてはならない」はChildren are overly protected these days, and so must not be spoiledとでも訳出されよう。Spare the rod, spoil the child(可愛い子には棒をうけよ)である。

〔時事新語英訳集〕

(文藝春秋社、昭和五年)に譲るとして、私たち日本人は、日本を再び国家たらしめるという奇妙な、しかし重大な問題を課せられている。国家にはいろいろな側面があるけれども、それを煮つめて行くと、軍事力ということになる。それによつて国土、国民、文化などを外敵から守るのが国家といふものである。軍事力は国家の本質であると言つてもよい。

ところが、戦後の日本は、アメリカの与えた日本国憲法第九条によって、国家の本質としての

軍事力の保有及び行使を禁じられてしまつた。それにも拘らず、朝鮮戦争の余波でアメリカの命令によつて警察予備隊といふ名の軍隊が作られ、それが保

装集団として、常に日蔭者の境涯に置かれている。その戦力も、本当に国土、國安隊、自衛隊と名称を改めて來

ているが、それは憲法違反の武

（奴隸的拘束及び苦役から自由）「何人も、いかなる奴隸的拘束も受けない」が引用され、徴兵制度は、奴隸制度であることになつたといふ。全社会主義諸国は、文字通り奴隸制かも知れないが、徴兵制度を実施している大部分の自由主義諸国も、奴隸制度の国ということにならう。

キューバ危機（一九六二年）で苦杯を嘗めたソ連が、その後、核兵器、運搬手段、通常兵力における狂気のよくな軍備拡張（G.N.P.の一五%前後）を続けたため、また、アメリカ側に、ソ連の軍事的劣勢が除かれ

（平和国家）といふ空虚なスローガンの怒号に消されてしまう状況にある。

それでも、戦後三五年、何とか日本の安全が保たれて來たのは、アメリカの軍事的優勢の副産物である。平和の高い理想を掲げながら、強大なアメリカの属国といふか、保護国といふか、そういう地位にあつたからである。理想のお蔭ではない。

共産主義者の考えは自ら別であるが、そうでない平和主義者

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

秩序としての自由

自由主義（リベラリズム）と自由放任主義（レッセ・フェール）とは根本的に違うものなので、日本が甘えたり拗ねたりして來た肝腎のアメリカの軍事力が急速に低下して來たのである。当然、アメリカは、日本を含む同盟諸国に軍備増強を要請して來ている。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常識な人間が殖えて來た。

昭和五五年八月一五日（敗戦記念日）附夕刊各紙は、徴兵は憲法違反であるという点で政府自

由党も社会党も一致したことを見じて、その通りだろ。

しかし、その際、憲法一八条（奴隸的拘束及び苦役からの自由）「何人も、いかなる奴隸的拘束も受けない」が引用さ

れ、徴兵制度は、奴隸制度であることになつたといふ。全社会主義諸国は、文字通り奴隸制かも知れないが、徴兵制度を実施している大部分の自由主義諸国も、奴隸制度の国ということにならう。

キューバ危機（一九六二年）で苦杯を嘗めたソ連が、その後、核兵器、運搬手段、通常兵力における狂気のよくな軍備拡張（G.N.P.の一五%前後）を続けたため、また、アメリカ側に、ソ連の軍事的劣勢が除かれ

（平和国家）といふ空虚なスローガンの怒号に消されてしまう状況にある。

それでも、戦後三五年、何とか日本の安全が保たれて來たのは、アメリカの軍事的優勢の副

産物である。平和の高い理想を掲げながら、強大なアメリカの属国といふか、保護国といふか、そういう地位にあつたからである。理想のお蔭ではない。

共産主義者の考えは自ら別であるが、そうでない平和主義者

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する経済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（経済活動）である。社会としては、世界に雄飛する絏済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに、ソ連が通常兵器のみによって世界各国に進出している事実を忘れてはならないし、他方、「最初の被爆国」や「非核三原則」とい

うのが何ら現実の効力を持たぬ感傷に過ぎぬことを知らねばならぬ。

戦後の日本は、國家（軍事力）ではなく、社会（絏済活動）である。社会としては、世界に雄飛する絏済大国である。しか

し、それは、資源、エネルギー、食糧を遠く海外から輸入し、製品を遠く海外へ輸出する

ことで成り立つてゐる。その海上輸送の安全を守つて來たのは、アメリカの軍事的優勢であつた。それが崩れる時、日本が

自らの軍事力によって海上輸送路の安全を守らなければ、経済大国は忽ち亡びる。日本が思ひ切つて国家にならねば、社会で

あることも不可能になる。

日本では、昭和五二年、日本へ

シクラブ会長石川達三氏が「二つの自由」ということを説き、

各集団が利己的欲望を権利と「絶対に譲れぬ自由」と「譲つ

政治家を含めて、駒抜けで非常

は、いざという時はアメリカが助けてくれるという甘えた気持めというより、日本そのものの

で平和の理想を高く唱えて來たのである。唱えているうちに、

国家として自己を再建せねばならない。特に核の問題を冷たいり

アリストの眼で見なければならぬ。一方、私たちが核にばかり

氣を取られているうちに

社会風俗用語

の解説

A stylized logo consisting of a large heart shape centered above a house-like base. A vertical line extends upwards from the top of the heart, ending in a circular loop that contains a small figure. The entire logo is rendered in a dark, monochromatic style.

扇谷正造

はじまり・おわり(上部)
1981年(下)

新語らん・追補

カアチヤンヤスマ、ハハキト
ク 教育評論家の川上源太郎の

『こんな朝の顔が見たい』で、ます
カラチヤンヤスメが生れ、つづいて

い母親たちのつくれる料理である。

ン)、ヤ(ヤキソバ)、ス(スペゲツテ
イ)、メ(目玉焼き)、ハ(ハンバーイガ

ー)、ハ(ハムエッグス)、キ(ギヨウザ)、ト(トースト)、ク(クリームシ

、チュー）、いすれも即席料理である。家庭電化が進み、主婦の余暇時

これを持て余している。ひところの「三食屋敷テノリ」の延長線上

にある社会風景とみてよい。

作家の戸板康二の造語である。戦前の日本人の平均寿命は五〇歳であつ

志シ、三十二シテ立チ、四十二シテ
惑ワズ。五十二シテ天命ヲ知ル。六
十二シテ耳順(した)ガウ。七十二シ
テ心ノ欲スル所ニ從エドモ矩(のり)
ヲ踰(こ)エズ」から、四十不惑(四
十二シテマドワズ)といふことばが
生れた。戦後は日本人の平均寿命が
伸びた。とくに女性の伸びが著し
く、今や七九歳となつた。その結
果、日本の女性は総じて若返つた。
「四十にしてマドモアゼル(令嬢)
」といふわけである。

人生懸々八〇年 平均寿命

がまたのびた。昭和五五年度厚生省
発表によると男子七三・四六歳、女
子七八・八九歳である。そこから新
ライフサイクルなるものが生れた。
「四十初惑、五十立志、六十精励(事
にはげむ)、七十成就、八十にして
熄む」というのである。『四十初惑』
は吉川英治の造語である。人生、二
省の婦人少年局長高橋久子が、日本

第一問「昭和一五年に一四・五歳だ
ったものが、五三年には一八・五歳
になつたものは?」、第二問「昭和
一五年には二三歳だつたものが、五
三年には二五・一歳は?」、第三問
「昭和一五年に四一・〇歳だつたの
が、五三年には三四・九歳になつた
ものは?」第一問の解答は「学校
を卒業した平均年齢」、第二問は「結
婚平均年齢」と簡単だが、第三問は
ちょっとむつかしい。「末の子が学
校にあがる平均年齢」である。労働
統計によると、昭和五五年度の「結
婚平均年齢」は二十九・二歳、「学
校にあがる平均年齢」は二十一・二
歳である。このように、労働統計
によると、結婚平均年齢は二十
歳前後である。

せつから、リブ運動の合ごとばになつてゐる。戦前の女性の平均寿命は四九・六歳で、子育て後の女性の余生は七・六年。それが現在は平均寿命が七九歳で差しひき四十余年となつてゐる。子育て後の四〇年を主婦はどう生きて行くか。リブ運動の二つの焦点である。

五無主義

「遊ばず」、「学ばず」、「動かず」、「動かず」の「三づの川」から今や子供たちは「無気力」、「無責任」、「無関心」、「無感動」、「無作法」の五無主義になつてきたり。一月二六日、高知市で開かれた日教組教研集会からの報告である。五無主義の報告者の秋田県河辺郡の小学校教師。とび箱が下手になると「ボクの体力は一年ごとに減る」(無気力子)、決められた実行行為をしない(無責任子)、隣のケンカにかまわざ絵を描き続け(無関心子)、美しいものにふれて

きつの出来ない（無作法）子、こうした子供が増えている。それらは子供を教えることができても育てることができない親や教師に問題があるのではないかと指摘された。もつとも「憲の心」に基いた教育実践で、子供たちが生き生きとしてきた（福井県）という例も報告されている。

加冠の儀　浩宮さまが成人を迎えた昭和五五年二月二三日、宮中で儀式が行われた。成年式である。

儀式は古式に則り「冠を賜うの儀」「加冠の儀」「賢所、皇壽殿、神殿に謁する儀」「朝見の儀」の四つに分かれ、式がすむと浩宮は、成年皇族として大勳位菊花大綬章をうけた。宮中の成年式は、奈良時代の元明天皇・和銅七年（七一四年）、皇太子。首（おびと、のちの聖武天皇）が一四歳で元服したのにさかのぼるが、永い皇室史の中でも、天皇の在位中に直

●社会風俗の流行語は、時代の波頭であるといつたのは、大宅壮一氏である。それは、その時代の世相、人心を鋭く切りとつてみてみてくれるが、波がくずれると、あとかたもなく消えて行く。ただ、底流に結びついた幾つかのことばは生き残る。そして長い才月に洗われて定着し、名言あるいは定言となる。いまは人の口にのぼっている諺や格言も、かつてはその時代の流行語だった。

●大雑把にいって、戦後の社会風潮はマターナリズム(女親的傾向)だった。ちょっぴり感傷的で、や

は主観的であり、エゴイステックである。その基調は今年も変わらないが、それが去年あたりからバタリズム(男親的傾向)に変りつつある。さだまさしの『関白宣言』が、ソフトな前ぶれなら、清水幾太郎氏の『核の選択』はそれである。この傾向は防衛論議の活発化につながって行く。

●もう一つは世代論である。次代の人間像は相變らずのテーマだが、中高年層に関するものが目立つ。平均寿命が伸びて、男子七三・四六歳、女子七八・八九歳となつた。これから老人の生き甲斐論や、新ラ・イフサイクル語の登場となる。

ドイツ最大のスーパー王・ネッカーマン (Josef Neckermann 1912~) ドイツ人の一面は頑固で易安な妥協をしない点にある。食生活でもインスタン

新語話題コーナー

方円となる勘定。

ボーゲル化 「ジャパン・アーベ・ナンバー・ワン」の著者米ハーバード大学エラ・F・ボーゲル教授の名前を借用、動詞化してボーゲル化。日本は経済大恐慌になつたのはいいが、胸をはらずに相互通じて相互理解の増進につとめることが大切。日本製品は品もよく値段も安いので、商品は右から左へと売れていく。そこでロスアンゼルスの若い商社マンなどは、アメリカ経済の潜在力を甘くみたり、アメリカ人といひねいにつき合わない風潮がでてい行く。それがこわい。なぜなら、自動車は今までアメリカは大型車、日本は小型車と分業してきたが、省エネ時代で、アメリカが小型車生産に乗り出してください、はたして、今まで

も落し主が現われねば法的には一億円が拾い主の手に入る。ただし税金が待っている。大貫さんの所得が年間に二〇〇万円とすると、税金に二五六万円ひかれて手元には七三八五万円となる勘定。

吉野昌也は好んでいり（新編）
上社長の大山梅雄の定言である。社長が天だとすれば地上の社員との間に妖雲が管理職である。「企業にとつて何が大切か」というアンケートに対する対し、各種の統計はこれまで自己啓発がトップだったが、五五年は

場等が多い。特に昭和二〇年から二一年ごろに一五歳だったのを中心にして三歳をプラス・マイナスしたのに多い。この世代はちょうど五〇歳前後で社会の中堅指導者層であるだけに社会的反響が大きかった。伸

視聴率二〇%。キャラクター商品としても売出されている。アニメにも進出した。ドラ猫の「ドラ」と保守的な「えもん」というのが、子供をちに親しまれているらしい。

タブラン 不可能を意味する
若者用語。田淵幸一（西武ライオンズ）選手には、ランニングホーム一
は無理ということに発している。
「そいつはタブランだよ」という風
に用いる。ほかにキャンバス用語と
「エイム」、「アーマー」、「アーマー

ズ・ナンバーワン』の著者米ハーバード大学エグラ・F・ボーゲル教授の名前を借用、動詞化してボーゲル化ゼーションともいう。日本は経済大国になつたのはいいが、胸をはらずに相互理解の増進につとめることが大切。日本製品は品もよく値段も安いので、商品は右から左へと売れて行く。そこでロスアンゼルスの若い商社マンなどは、アメリカ経済の潜在力を甘くみたり、アメリカ人といいねいにつき合わない風潮がでている。これがこわい。なぜなら、自動車は今までアメリカは大型車、日本車は小型車と分業してきたが、省エネ時代で、アメリカが小型車生産に乗り出しありから、はたして、今まで

る。企業はふくれあがつて現在のトップはその調整に追われ、消費者のニーズとか、先行き見込みなど先見性を持ちにくくなつてきてる。しかも国際国内的状勢はきわめて流動的で、状勢を把握できない。そこへ行くと、部課長は、自分が担当する部門を通じて、現実に接触し、本人に問題意識さえあれば、的確に状勢をつかむことができる。企業の生命は、は妖雲を『瑞雲』にするか、『凶雲』にする、それが企業の命運にかかるわけ。つくるというわけ。

が、身体の発育にもろさと弱さを与えた結果だらうといふ解釈。

リープが主演の映画で、上映以来、社会的反響が大きく、『グレーマー家庭』（父子家庭）という新語を生んでいる。目ざめた妻が家を出る。夫はママめしく子供の養育に専念、その結果、仕事がおろそかになり会社はクビになる。自立した妻は子供をひきとりたいといい、法廷の争いになり、妻が勝訴する。そこでのセリフ。妻「なぜ、女はなみの野望を持つといけないの？」、夫「僕は知りたい。なぜ女は、女たるがゆえに、よき親たるのか」——リープ運動の本質に迫つたこのヤリトリは、いろいろな反響を生んだ。密度の濃い複雑な心理のひだを持つ映画として、地味な人気を博した。

し「半外る」(何をやつてもツイでいる)、「オカダる」(逆境に耐えてひたすら頑張る)と「うことばも流行中」の新語。評判通りの木田、岡田両チームが、新人王の最短距離に立っていること、オールスター戦に選ばれての対決が注目の的となつたからである。人生のプレッシャーに負けそうになつてゐる仲間に対し「くさるなヨ。オダだれば、必ずキダつてくれる」と声をかけるのだという。

竹の子族

主として代々木公園の歩行者天国にあつまる若者たちの異風景。アーロヘアの「大和武尊」やまとたけるのみこと」や、もんべをはいた「卑弥呼(ひみこ)」などいつも三〇〇人くらいが登場、周囲は見物人でいっぱいである。『竹の子族』の語源といわれるブティックの「竹の子」の主人公大竹竹則はその仕掛け人の一人。この異様な風俗も氏によれば「一種の気分転換。大人は子供たちにただ勉強しなさいよ」という。それじや息がつまりますよ。バカだ、チヨンだというが、彼等には最高の楽しみ。暴走族のように他人に迷惑をかけない」という。青春の持つ無目的エネルギーの爆発とも、過度の自己顕示欲とも、解釈はさまざま。時代風俗としては「太陽族」(昭和三一年)、「六本木族」(三六年)、「みゆき族」(三九年)、「原宿族」(四二年)から「竹の子族」という系譜につらなる。

郎「バーマン」などのヒット作を生んだ藤子不二雄の漫画。主人公は“まん丸おめめにヒゲ六本”的ネコ=ドラえもんである。ロボット工場で生まれたが能力不足のため特売に出され、セヴァン家に買われた。耳がないのはネズミにかじられたのである。頭にコンピュータを内蔵し、奇想天外な道具を“四次元ボケット”からとり出す。それが子供たちの夢をくらませる。昭和四六年一月、小学館の小学校一年生から六年生まで連続出版された。

獲得したが、失敗作との声が多い。様式美にとらわれて、史実の考証が弱く、見せ場で肩すかしを食った。とくに織田勢の鉄砲組に武田勢の精銳がなぎ倒される場面がなく、一軒倒れている無数の馬の場面は、黒沢の考え方ちという批評が圧倒的だった。しかし、各場面の絵画的な構図や、日本では非難的の様式美が、かえつて海外では日本の理解を深めのでは……という意見もあって、貴重ママチャチ。興亡成敗はまあまあ

行した。兜町での今年の特徴は仕手戦であった。無配会社や業績の芳ばしくない低位株が、大商いを続け、株価は高値をつけた。宮地鉄工所など二八六〇円の最高値をつけた。大蔵省や証券取引所が規制に乗り出したが、株式市場での思惑や投機は資本主義市場では、当然のことで、規制する方がおかしい。それは「株価の勝手でしょ」という風に用いる。「わたしの勝手」「妻の勝手」「生徒の勝手」……自己主張時代の反映で

一
九

又映画祭でグランプリを

張もあり、反抗的意味も加わって流

「どういらないの?」夫一樹は矢張り、い。なぜ女は、女たるがゆえに、き親たるのか」——リブ運動の本質、追つたこのヤリトリは、いろいろ反響を生んだ。密度の濃い複雑な理のひだを持つ映画として、地味人気を博した。

カラスの勝手 TESのトライ
フターズ「8時だヨ! 全員集合」の中から生れた。『カラス、なぞ鳴くの、カラスは山に、かわいい七つの子があるからよ……は、有名な童謡だが、この後半をスバツと切つて、「カラスの勝手でしょ」とうける。

妻「なぜ、女はのみの野望を持つ
結果、仕事がおろそかになり会社
クビになる。自立した妻は子供を
きとりたいといい、法廷の争いに
り、妻が勝訴する。そこでのセリ

「キーが、新人王の最短距離に立つてのことと、オールスター戦に選ばれての対決が注目の的となつたからである。人生のプレッシャーに負けそうになつてゐる仲間に對し「くさるなヨ。オダだれば、必ずキダつてくれる」と声をかけるのだという。

な「えもん」というのが、子供た
に親しまれているらしい。

は無理といふことに發している。「そいつはタブランだよ」という風に用いる。ほかにキャンバス用語として「キダる」(何をやつてもツイいでいる)、「オカダる」(逆境に耐えてひたすら頑張る)といふことばも流行中の新語。評判通りの木田、岡田両

新語話題コーナー

冷夏

一三〇〇人が死亡したアメリカの熱波はじめとし、日本、ヨーロッパの冷夏、インド、東欧の豪雨、アフリカ、中国、オーストラリアの干ばつなど世界的な異常気象が続いた。日本の「涼しい夏」がはじまつたのは、七月二十五日からで例年より五、六度も低い、熱帯夜(二〇度以下にならない夜)は、今年は五回だけで、農作物の不作も憂慮された。日本の冷夏は戦後では、昭和二〇、二二、二八、二九、三一、五年が記録されているが、原因は地球的な規模での石油石炭の燃焼や森林伐採などによる炭酸ガスの増量の結果ともいわれる。

もある。

「それなりに」 「美しい人は

より美しく、そうでない人はそれなりに……」樹木希林と岸本加世子のギャグ風テレビCMが、爆発的に流行した。製作者は富士写真フィルム宣伝課長(富樫總之助)。チームの背景は、今の社会の底流にある「そ

れなり」意識だという。低成長とはいえた。経済もまあまあ、国民の大部分を楽しんでいた。サラリーマンもかつてのモーレツで

もなく、さればといつてビューティフルでもない。現状肯定? 満足?

と解釈はさまざま

あきらめ? と解釈はさまだ

が、「それなり派」が多數を占めて

いる。何よりも耳なれた日常語にち

よつびり皮肉をきかして使っているところが、うけたのかも知れない。

イエスの方舟(はこぶね)

東京多摩地区で昭和五年ころから女

子高校生、や女子大生、OLなどが

つぎつぎと失踪、「イエスの方舟」と称するキリスト教の団体に入信し

その数は二五名にのぼった。父兄の

訴えや、いち早くキヤンベーンを開

始したサンケイ新聞に呼応し、捜査

会問をめぐり紛糾をつづけたが、

当局は五五年七月三日ついに懲戒

任、懲戒、議員登載で、一応解決し

である福岡市のマンションを強制取

り、自ら励ますことば、政局への感

想などが書かれているが、その一節

に「求めて得難きものを得ようと焦

つたりするな。失われて回復しよう

あることを悔むな。信じ難き話を

するとなれば」とある。

が、

その

の

ミー

シャ

倒産

モスクワオリ

ン

ビック

の

不

参

加

入

選

出

行

る

だ

う

が

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ

の

だ